

令和元年（2019）年度事業報告書  
令和元(2019)年4月1日から令和2(2020)年3月31日まで  
特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク

1 事業の成果 定量的成果

(1)提供者数

	9期 H30.2018.04-2019.03		10期 R1 年度.2019.04-2020.03		累計(2010~)
	2018 年度	対前年比	2019 年度	対前年比	
提供者数(人)	5,036	-1,559	5,571	+535	28,619
協力者数(人)	242	-138	426	+184	3081
活動時間(時間)	12,871	-4777	19,977.5	+7,106.5	101,930

(2)情報アクセス数

	9期 H30.2018.04-2019.03		10期 R1 年度.2019.04-2020.03		累計(2010~)
	2018 年度	対前年比	2019 年度	対前年比	
H P アクセス	7,308	+468	11月より アクセルログ が取れず。 集計不可。	—	—
H P P V	14,422	+1,240		—	—
S O Z O アクセス	10,306	-4,976		—	—
S O Z O P V	23,026	-9,518		—	—
合計アクセス	17,614	-4,508		—	—
合計P V	37,448	-8,278		—	—
F Bいいね！(人)	2,220	+123	2,334	+114	2,334
T w i t t e r フォロワー 数(人)	1,033	+92	1,239	+206	1,239
メディア掲載件数(件)	15	-24	21	+6	224

(3)決算概要 ※詳細は活動計算書をご覧ください。

	9期 H30.2018.04-2019.03		10期 R1 年度.2019.04-2020.04	
	2018 年度	対前年比	2019 年度	対前年比
収入計	26,565,248	-5,733,424	27,116,898	551,650
支出計	25,747,598	-4,297,279	25,826,494	78,896
当期経常増減額	817,650	-1,436,145	1,291,404	473,754
過年度損益修正損 (法人税等)	865,800	-	0	-865,800
当期正味財産増減額	622,900	-	205,600	-417,300
次期繰越正味財産額	-671,050	-2,924,845	1,086,304	1,757,354
	2,226,999	-671,050	3,313,303	1,086,304

#### (4)定性的評価

- ・事業計画の執行については、概ね予定通りに進めることができた。3月に予定していた事業については、新型COVID-19の影響による一部中止・延期等の対応となった。
- ・コワーキング/イベントベースであり40台駐車できる地域拠点aretに事務所移転し、当会が関わる挑戦意欲ある若者たちが日常的に集い、磨き合える環境を整備することができた。また、地域拠点aretは挑戦者ためだけでなく、地域住民とも関わり合える「地域の玄関」機能を有し、現場の近さを活かしこれまで以上に若者を必要とする声を集めやすく関係性を育みやすくなつた。これまでの課題であった挑戦意欲ある若者たちのより一層の地域展開に対しても環境整備でき、この環境を活かし高めていくことが次年度注力すべきポイントである。
- ・プログラムの連動についても、アイデアネクストのエントリーが13組と最多であることや当会への長期インターン生が合流するなど、入口(「若者×当会」接点+意欲)向上のプログラムからの発展が感じられた。エビデンスとして客観的把握は未整備であるので試見であるが、年間延べ5571人のうち複数参加を除く純提供者数2000名程度の若者と関わるもの、プログラム接点から次に展開できた若者は400名程度と思われ、約1600名を次に展開できていないと想定している。この初接点から次への展開率についても、評価軸にできるよう進めていくことに加え、次への展開を高めるプログラム連動が求められる。
- ・台風19号による県内被災に対して、アイデアネクスト卒業生を含め、県内の「若者×地域」コーディネートに関わる県内団体と緊急的にチームを編成し、独自に若者ボランティアを現地で活動する仕組みの構築と運営することができた。有事であるが、これまで構築してきたネットワークが支援機能として機動することができた。

#### (5)重点事業の評価

①地域拠点を踏まえた、新たな事業スキームを検証していく。

⇒地域拠点aretに挑戦する若者と地域課題の声が集まり、挑戦者が課題現場に入り現場の景色を変えていくコーディネートに注力する事業スキームを描いた。iDEANEXT卒業生がaretに集うようになったり、aretオーナーの光琳寺と連携した取り組みが始まる動きが起きた。他のプログラムとも連動し挑戦者や相談者が増えたりと挑戦者へは地域拠点aretの認知が高まった。しかしながら、課題を抱えている人の掘り起こしや認知向上については、打ち手に欠いた。新たな事業スキームを描きながらも、これまでの事業スキームの運用の比重も大きく、並行で行う難しさを感じた。

②「iDEA→NEXT」を中心事業に据えて、他のプログラムとの連動性を高め、質の高い支援を提供し、修了後の継続的実践者を増やす

⇒エントリー者が13名(昨年度6名)と大幅に伸びた。各プログラムを入り口にして連動できたことと、プログラムを長期化することに、アイデアのはじまり(想いはあるけど、仮説はない)層を取り込めるようになったが要因と考える。しかしながら、コロナウィルスの影響もあり13組のうち5組が辞退している。長期化によるプログラムの間延び感もあり、アイデアの始まり層を支えることの難しさと異議を今一度問い合わせターゲットの設定と支援プログラムの見直しが必要である。

③当会のコーディネートノウハウの他地域展開(ハンズオン)支援とネットワークの形成の準備を行う。

⇒地域コーディネーターの養成講座(下野市)等での開催を予定していたが、新型コロナウィルスの影響により実施ができなかった。ハンズオン支援まではできなかつたが、台風19号の被害対応により県内各地の地域×若者をコーディネートできる団体と協働実施するなどネットワークを活かす動きはできた。

④組織運営の観点では、次期の中心を担うる 20 代職員採用に加え働きやすい雇用環境づくりを行う。なおより信用を高め、NPO 業界のモデルとなるよう、コンプライアンスの遵守においても力を入れていく。合わせて、YOUTH TIME の位置づけを踏まえ、会員・支援者との関わりを見直し、具体的な改善を行う。  
⇒新たな職員と大学生のインターン生が加わりスタッフの若返りが図られた。またこれまで同様フレックスでの勤務体制に加え、事務所にいなくても仕事ができるようにクラウドでのデータ共有化や slack を活用した社内コミュニケーションなどに着手した。YOUTHTIME の見直し、会員に制限することなく当会に関わっていただいております方(利用者、応援者、事業連携者・協力者など)との新年会などを実施し、それぞれの関わり合いを広げることができた。

#### (6)総括

「プログラム開発運営モデル」から「地域拠点 aret を据えた挑戦する若者の地域展開モデル」への仕込み。

提供者数また決算共に微増となった 2019 年度。新たな若いスタッフの合流によりプログラムのコーディネートや管理運営業務も分厚く実施することができた。

また地域拠点 aret への移転が、プログラムを事務所併設した環境下で実施できるようになり、移動や準備等の工数軽減の他、参加者と拠点の関係性が積みあげていくことができ、プログラムの効果や連動、参加者の定着がしやすくなった。また上記にもあるように当会に関わりある若者を含め、挑戦者意欲ある若者への認知の拡大を図ってきた。次年度については引き続きより一層の挑戦人材への認知拡大しながら、若者の力を必要としている声を集約し、若者の活躍機会となるプログラムを開発し、エリアに密着した形で実施していくことが求められる。若者が力をつけただけでなく、その成果として、地域社会に一人でも多くの笑顔を増やしていく貢献を成果とできるように、事業支援を踏まえた地域コーディネート業務の質の向上も目指すべきところである。

その他、県内各地において、地域の魅力や課題に「関わりしろ」を持たせたプログラムを開発運営できるコーディネーターが広がりうる予兆を感じている。その際、各地の地域コーディネーターの質の向上と、地域コーディネーターがつながっていない層を届けていく役割が生まれうる。こうした県内地域コーディネーターとも有効性のあるネットワークを構築しながら、当会として県内の教育機関・行政、そして若者との関わりが広がっている強み活かし、県内各地に若者の力を届けていける体制や仕組みの整備も必要である。

一方で、コロナウィルスの影響により交流の自粛など、これまでの関わり合いを前提としたプログラム開発運営モデルの危うさも感じた年であった。人と人が「関わり合う価値」の再定義と発信、同時に、安定した事業運営にむけてはオンラインや WEB を活用したコーディネートやプログラム提供の開発など、テクノロジーを積極的な活用にも取り組んでいく。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1)特定非営利活動に係る事業

事業の種類 (定款)	事業群	事業内容	事実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の支出金額(千円)
1 会 業 行 人 材 育 成 事 業	実践型インターンシップ事業  起業・創業ネットワーク事業	「GENBA CHALLENGE」 「宇都宮大学課題発見・解決インターンシップ」	通年	栃木県内	2名	大学生、20代社会人、地元中小企業 延94名/4,636時間	643
		若者の社会をよくするスタートアッププログラム「iDEA→NEXT」	10月～3月	事務所	6名	社会をするアイデアを持った39歳以下の若者 延30名/75.5時間	880
		創業プロデューサー事業  宇都宮起業家養成事業 「起業の実際と理論」運営	6月～2月 10月～2月	栃木県内 宇都宮大学	3名 2名	延185名/1227.5時間  大学生、社会人等 延328人/492時間	2,825 1,239
	地域担い手定着事業	首都圏若手人材U.I.Jターン事業 「はじまりのローカルコンパス」「Jimoto TOCHIGI」	8月～3月	首都圏 栃木県内各地	1名	首都圏在住U.I.Jターン希望の若手社会人、県内地域活性化プロジェクト各団体 延61人/122時間	5,603
		地域の担い手育成事業 「那須烏山地域おこし協力隊研修」	6月～3月	那須烏山市	1名	那須烏山市地域おこし協力隊 延56人/359時間	601
		とちぎ地域づくり担い手育成事業	7月～3月	栃木県庁	3名	地域づくりに関心のある若者、社会人 延305人 /1359時間	3,212
	若者人材育成事業	下野市関係人口	9月～3月	下野市	2名	県内若者 36名/108時間	5,732
		COC+連携事業	9月～3月	宇都宮大学	2名	県内在住者 延87人/304.5時間	
		宇大未来塾「とちぎ志士プログラム」「次世代経営マネジメントプログラム」	4月～3月	宇都宮大学	2名	県内若者 延551人/1493.5時間	
		若者有権者向け選挙ワークショップ事業	12月～3月	宇都宮大学	1名	大学生 延56人/102時間	
		コカ・コーラボトラーズジャパンCSRプログラム開発・運営「ミライキャンパス」	6月～3月	イエローフィッシュ ACプラザ	1名	大学生 延26人/108時間	
②ソーシャルプロジェクト支援事業	創造都市研究ゼミ	9月～1月	イエローフィッシュ	1名	県内社会人 延べ46名/138時間	443	
	台風19号支援	10月～2月	宇都宮市 那須烏山市	3名	県内大学生 延べ238人/2,360時間		

⑥社会事業に関する 相談/アドバイス事 業	講演	通年	栃木県内	2名	県内社会人、大学生 30回、延 2286 人/4,642 時 間	4,642
	宇都宮市アクセラレータープログラム	9月～3月	イエローフィッシュ、アレット	1名	県内起業家 延べ 65 名/280 時間	
⑧情報発信事業	情報発信 A WEB A-1 HP A-2 SOZO B SNS B-1 Facebook B-2 twitter B-3 LINE@( ) 管理・発信、資料発送	通年	当会事務所	3名	<WEB>(A-1,A-2)計) アクセス集計できず。 <SNS> B-1 2234 いいね！(114 増) B-2 1239 フォロワー(206 増) B-3 238 人	
			計	6名	受益対象者の範囲及び人 数 39 歳以下の若者を 対象に、 延 5571 人/19977 時間	25,820 (端数略の ため誤差あ り)

(2)その他の事業

事 業 名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 の人数	受益対象者の範囲及び人 数	支出額 (千円)
なし	なし	なし	なし	なし		なし